

第19回 全国市議会議長会研修フォーラムin盛岡 研修参加報告書

江津市議会議員 石橋 孝義

大会テーマ「主権者教育の新たな展開」

開催日：令和6年10月9日（水）～10日（木）
場 所：トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）

第1日目（10月9日・水曜日）

〔要点・所見〕

○基調講演「人口減少社会における地域未来図」

講演者 菅 義偉 氏（第99代内閣総理大臣）



10月9日当日衆議院解散により中止

〔パネルディスカッション〕

「地方議会の課題と主権者教育」について

■ コーディネーター

井柳 美紀 氏：静岡大学人文社会学部法学科教授

■ パネリスト

土山 希美枝 氏：法政大学法学部教授

越智 大實 氏：一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事

渡辺 嘉久 氏：読売新聞社東京本社教育ネットワーク事務局

遠藤 政幸 氏：盛岡市議会議長

○井柳 美紀 氏

- ・ 議長会による主権者教育の推進
- ・ 地方議会の課題
 - 投票率の低下
 - 無投票当選の増加
 - 議員の性別や年齢構成の偏り

○ 議会に対する関心を深め、理解を深める主権者教育を一層推進すること

○ いわゆる出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取り組みに対する支援を講ずること



- 高校生向け主権者教育副読本の紹介
「私たちが拓く日本の未来」紹介、解説

パネルディスカッション

○「誰がための主権者教育か」

法政大学法学部教授 土山 希美枝 氏

- 市民と議会の間にあるもの、若者と社会にあるもの
- 議会は主権者教育の「主体」か？
- 議会と子ども、若者たち、教育機関との関係の中の「主権者教育という機能」
- 議会は何をなすべきか
どれほどの資源を用意するのか、議会の「本来の」機能にとってどのような意味を持たせるのか、それぞれの現場で確認を

○「若者の政治、社会の意識から考える主権者教育の必要性」

—13年間の主権者教育の取り組みを通して—

一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事

越智 大寛 氏

- ① 若者は政治や社会をどう捉えているのか
→若者は関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っている
[議会の役割] 交流機会を増やし、「自分の意味がない」と思ったり、「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やす
 - ② 学校現場における主権者教育の現状
→政治的中立へ過度な配慮があるが、それは学校が悪いわけではない
[議会の役割] 学校でもリアルな政治が扱いやすいよう環境も作る
(例) 外部団体(学生)と超党派で、主権者教育チームをつくる
× 政治活動として使わない。主権者教育は「教育」であり、「イベント」ではない
- 13年間の主権者教育の取り組みについて
→ 政治“家”との交流は、子どもたちの政治意識の醸成に大きく影響する
□ 1回でも議員の皆様との交流機会を作っていきたい！

読売新聞社 渡辺 嘉久 氏

○ 高校生の政治意識

- ▽大阪教育大学付属高校池田校舎
- ▽青山学院横浜英和中学校高等学校
- ▽静岡県立袋井高等学校

▽静岡県立袋井商業高等学校

▽済美平成中等教育学校

計 786 人

「政治とつながる」とは

「政治」は「未来」

「政治とつながる」＝ 「未来とつながる」

「政治を考える」＝ 「未来を考える」

↓

「未来の自分を創造する」

「世の中で起きていること、これから起きること」

考えるためには・・・

「時間は未来から流れてくる」

☆ どういう未来を行きたいか？理想の未来は？

☆ 「こうありたい」という未来のために、何が必要か？

○ 盛岡市議会の取り組み

議長 遠藤 政幸 氏

◎ 盛岡市議会 高校生議会

- 平成 28 年 12 月～高校生議会開催の検討（議会運営委員会）

- ・ 議会による主権者教育として、高校生が議会を経験する機会を設けたい
- ・ 議員にとっても刺激を得る機会としたい

平成 29 年 7 月 盛岡市議会高校生議会（第 1 回）開催

- 開催の目的
次世代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を持つこと

参加者の声

「市政に関心を持った」

「議会の役割が理解できた」

◎ もりおかmiraiおでかけミーティング

- ・ 盛岡市の 20 年後の未来は希望がある！
- ・ 議員がファシリテーターとなり、進行
- ・ ワールドカフェ方式を採用し、学生と議員がテーブルを移動しながら、市政について意見を交換する
- ・ もめごとを→まとめる→これが基本で大切である



第2日目（10月10日・木曜日）

〔課題討議〕

「主権者教育の取組報告」

■ コーディネーター

河村 和徳氏：東北大学大学院情報科学研究科准教授

■ 事例報告者

白鳥 敏明氏：伊那市議会前議長

諸岡 覚氏：四日市議会議員（第83代議長）

服部 香代氏：山鹿市議会議長



〔課題討議〕：「主権者教育の取組報告」

東北大学大学院情報科学研究科

准教授 河村 和徳 氏

理想と現実

- 理想
 - ・ 主権教育は、基本的にシチズンシップ教育であるべき
 - ・ 地域の社会的課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う方向にもっていくべき
 - ・ 社会には、多様な意見があり、多様な意見があるということを理解する（→ディベート）
- 現実
 - ・ 知識の享受（制度の理解）が中心、正解を教えようとする
 - ・ 投票者重視（模擬投票）の教育
 - ・ 実施の主体が「公（教育委員会、選挙管理委員会）」・・・連携の不十分さ

選挙権年齢の18才引き下げの論点

- 大人になるプロセスの変化
- 2016年参議院通常選挙から見える若者の投票参加・投票行動
- 知識の提供だけでなく、実践の場の提供も必要

選挙と選挙後の連続性を理解させる必要

- 「地方自治法は民主主義の学校」である
- 選挙の意義、議会の意義などを実践を通じて学ぶ
- 政治的社会化、政治的な有効性の理解を進める
- 地域で異なる意見が存在し、それをぶつけあうことで、合意形成をしていくプロセスが理解
⇒寛容な政治、多数決ばかりが民主主義ではない

- 選挙で、有権者は政治家を選び、政治家は民意を背負って議会で発言し、次の選挙で有権者は評価する

現代の主権者教育で感じる限界

- 模擬投票に偏りすぎた教育
 - ・ 模擬投票は選挙の仕組みを学ぶ上で有効だが・・・
 - ・ 選管の出前講座もそうなりがち
 - ・ 選挙権年齢の引き下げ以前なら、現実の事例を使えたが・・・
 - 政治的中立の足枷
 - ・ 政治的発言をしないことだけが政治的中立というわけではないのだが・・・
 - ・ ディベートの不足……ノウハウの乏しさ
- ※ ディベート…特定のテーマについて肯定派と否定派に分かれて議論し、最終的に勝敗を決める討論
 明確なルールに基づいて行われ、論理的思考力や物事をわかりやすく簡潔に伝える能力を鍛えることができる

政治に参加する方法

- 政治に参加する方法は、「選挙」ばかりではない
 簡単な政治参加の方法・・・「署名する」「選挙で投票する」
- 団体をつくり、社会に働きかける・・・「陳情活動」「デモの実施」
- 付随して、
 - ・ 政治家や団体への献金
 - ・ 選挙運動を手伝う（ウグイス嬢をする、周囲へお願いして回る）
 - ・ 智恵を出す（政策を提案する）
 - ・ 究極には・・・立候補する

アプローチを考える

- 「社会を知る」という視点
 - ・ 民主主義の仕組みを知る
 - ・ 自由主義の仕組みを知る
 →知識を得る場としての地方議会
- 「選挙に参加する」という視点
 - ・ 投票する人
 - ・ 立候補して当選を目指す人
 - ・ 選挙管理をする人
 - ・ そしてそれらを伝える人（メディア）

議員と会うだけでも意味がある

- 子供たちにとって「議員と会う」ことは、普段接している人と違う場として機能する
- どの段階で会うべきか
 - ・ 小学生以下は？ 課題がある地域では
- 個人で会うか、組織で会うか
 - ・ 個人で会うか、組織で合うかは、選挙運動ととらえられる可能性がある
 - ・ オンラインも意識
- 議員が話すか、子どもが話すか
 - ・ 代表の子の発言を聞いてあげるのがベスト

アプローチを考える

- 発達段階に合わせた議員とのコミット・・・議会の役割から逆算
- 総合学習的な発想
 - ・ 地域課題を発見し、それを議論し、改善策を提案するサイクルが「政治」であるならば・・・
 - 地域の課題の棚卸
 - 政策の進捗状況を調べる

○ 高校生議会傍聴と意見交換

伊那市議会前議長 白鳥 敏明 氏

- 平成 30 年の市議選が無投票（定数 21 人）→ 議員のなり手不足に危機感
- ↓
- 全議員参加「魅力ある議会作り検討会」設置
- ↓
- 議会への関心を高める方策 → 若い世代、特に高校生に関心を高める

令和元年 6 月伊那西校生徒の傍聴から令和 6 年 8 月伊那北商校生徒による意見交換会（議場）まで毎年

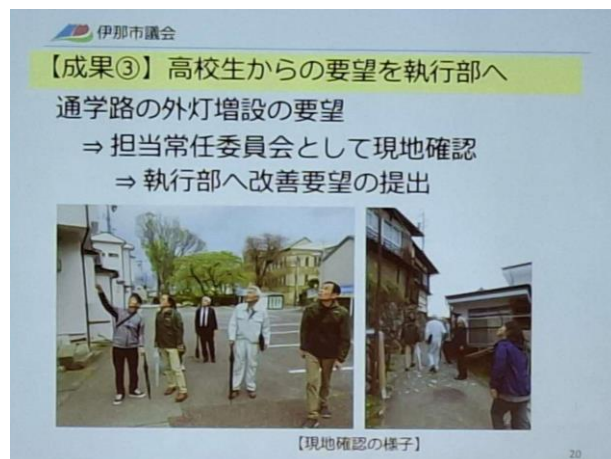
【成果①】 高校生からの意見・提案

【成果②】 意見交換に参加した高校生による請願の提出 → 全会一致で採決

【成果③】 高校生からの要望を執行部へ
→ 通学路 の外灯増設の要望

【課 題】 高校生からの意見より

- 議会は SNS をもっと活用すべき



- ・ 議事録は活字が多い
- ・ 議員がやっていることをもっとアピールしてくれると、興味を持てる
- ・ 意見交換会を定期的に行って、多くの意見をくみ取ってほしい
- ・ 居場所を駅周辺に作ってほしい など

○ 四日市市議会 主権者教育の取り組みについて

四日市議会議員（第83代議長） 諸岡 覚 氏

- ・ 「ワイ！ワイ！GIKAI」開催
 - ・ 令和元年5月 議員選挙で公約
 - ・ 令和2年1月 対象を高校生・大学生とすることを確認
 - ・ 令和4年11月 名称を「ワイ！ワイ！GIKAI」とし、開催事例報告



○ 山鹿市議会が取り組んだシチズンシップ教育

山鹿市議会議長 服部 香代 氏

- ・ シチズン教育で伝えたいこと 小学校で
 - ・ 市議会について
 - ・ 議員の仕事を理解する
 - ・ 選挙の意義や投票の大切さがわかる

↓

協力者の大切さ

ギカイを知ろう

1. 議会と児童会
2. 議員の仕事
3. 山鹿市議会について

4. 「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」を使って
投票→開票→結果
5. 自分たちのまちの決まりは自分たちで決めよう
6. **あなたも議員になれる!** など

〔感想〕

1. 二日間の研修は、それぞれの市議会で感じていることを、真剣に率直に、問題解決のため行動していて、一步ずつではあるが、成果を上げていることが、大変良く理解できた
2. 一・二期生の議員が、学ぶとより大きな知識の収穫があったと感じた
3. この知識を共有したいと感じた

終わり